

会 議 録

会議の名称及び会議の回	第1回飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会
開催日時	令和5年5月24日（火） 午後7時00分～9時00分
開催場所	飯田市役所3階 C311-313 会議室
出席委員氏名	別紙名簿
欠席委員氏名	羽生功樹委員
傍聴者	なし
出席事務局職員氏名	熊谷教育長、秦野教育次長、今井学校教育専門幹、伊藤生涯学習・スポーツ課長、社会教育 本島係長、スポーツ振興 氏原係長、松原主事、北村主事、賜部活動地域移行支援コーディネーター
会議の概要	以下のとおり

1 開会 （進行：生涯学習・スポーツ課 伊藤課長）

2 委嘱状交付

3 挨拶 （熊谷教育長）

日頃より、飯田市の教育活動にご支援いただいていること、今回協議会の委員をお引き受けいただいたことに感謝いたします。アドバイザーとして筑波大の稲垣先生、南信教育事務所飯田事務所の指導主事の2名の皆様にもご出席いただいております。本当にありがとうございます。

そもそも平成30年にスポーツ庁、文化庁から「部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が派出されました。長野県からも「長野県中学生期のスポーツ活動指針」が改訂されまして、飯田市教育委員会としましても部活動の改革に取り組んでまいりました。令和元年度からは飯田市スポーツ協会との連携による「全市型競技別スポーツスクール」を実施しまして令和3年度からは、社会教育機関との連携によって様々な文化活動の方も、人形劇等も含めた文化活動の講座も実施しております。

昨年12月末には「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」というものが示されまして、それは国の方からですが、部活動の地域連携、あるいは地域クラブへの移行に向けた環境整備の必要性が示されました。長野県教育委員会でもこの3月から検討協議会を立ち上げまして、こちらの方の協議にも注視しなければいけないと思っておりますが、しかし、飯田市は、飯田市の状況にあった地域連携、あるいは地域クラブ活動への検討は、必ずしも県と一致するものではないというふうに予想しておりますので、子どもたちにあった、地域にあった連携、あるいはクラブ活動への移行を考えていかなければいけないと思っております。

また、飯田市のみならず、周りの町村と連携も模索しながら、あるいは共有しながら進めていく必要があると考えているところであります。すでに飯田市としては、全市型スポーツスクール等の財産がございますので、そうしたことも踏まえつつ、そうはいつでもまだまだ参加できない子どもたちもたくさんおりますので、そういった子どもたちにもよりよいスポーツ環境、文化環境はどうあったらよいかということ、皆様方からのご意見をいただきながら進めてまいりたいと思っております。

いずれにしてもスポーツ・文化の2つの専門部会を設けて、各部会ではそれぞれのテーマに応じて地域で活動されている団体や、民間のスクール等の皆様からご意見をお聞きしながら、まずは土日、休日における活動の場づくりを目指していきたいと思っております。是非、飯田市の中学生期の文化芸術・スポーツ活動が、より豊かなものになり、また子どもたちにとって、ウェルビーイングと最近よく言われますが、そういったことなるように皆様からのお知恵をお借りして、充実した協議会となることを願っております。どうぞよろしく願いいたします。

4 飯田市中学生期における文化芸術・スポーツ活動連携協議会についての説明 (伊藤課長)

5 自己紹介 (別紙名簿 一人一人からの自己紹介) (伊藤課長)

6 正副座長の選出 (伊藤課長)

7 協議

(1) 国・県の動向についての説明 (熊谷繁指導主事)

(2) これまでの取組を踏まえた今後の飯田市の方向性についての説明 (氏原係長)

(3) 部会に分かれての協議

- ・中学生期の文化芸術・スポーツ活動の現状や課題、飯田市が目指す方向性、目的について
- ・すぐにできること、長期的に考えていくことについて

① グループ1

【現状・課題】

- ・部活動が変わらなくてはならない。大人の意識変革が進まない。
- ・部活動というくくりでは、生徒の多様なニーズに応えることは難しい。部活動に代わるものを作らなくてはならないという意識が学校現場にある。
- ・中体連の在り方、学校単位での参加、全国 NO1 を決めるというシステムに問題がある。
- ・部活動の地域移行についての保護者や地域の方の理解が進まない。
- ・地域における指導者の確保。指導者の育成に課題がある。
- ・大規模校、小規模校での「体験格差」が生まれてしまっている。
- ・専門的に部活動指導をできる教師が少ない。

【具体的な目指す生徒の姿】

- ・自分で考え、計画し、行動する、主体的に取り組む生徒。
- ・自分のニーズにあった環境を選べる。それによってスポーツの楽しさに触れることが大切。
- ・やりたい時にやりたいことができる。

【すぐにできること】

- ・全市型スポーツスクールを生徒が希望する種目を用意していく。参加への PR。
- ・公民館主催のスポーツ事業へ中学生が参加するような呼びかけ。
- ・部活動の役割の整理。スポーツを楽しむ場としての部活動、主体性を育む場としての部活動。

【長期的に考えていくこと】

- ・運営主体の決定。地域のスポーツクラブづくり。指導者の養成システムづくり。

② グループ2

【現状・課題】

- ・地域指導者の確保。教師、保護者、社会体育の指導者に対して、子どものための部活動への理解を図っていく。
- ・「体験格差」が広がっているのではないか。クラブチームで取り組む子(高い技能レベルを持つ子)と部活動の両立は難しい。この他にも指導方法の違い等、様々な壁がある。
- ・メジャースポーツ、クラブチームがしっかりしている競技種目に部活動は必要ないのではないか。
- ・クラブチームの指導者は、ボランティア的に行っている現状がある。このままでは指導者の確保に限界がある。指導者の育成も課題。

- ・全市型の現状として、5月から体験が始まっている。バスケットは新しい生徒が4人。他校の生徒と交流できて楽しいと毎回参加している。

【具体的な目指す生徒の姿】

- ・生徒が主体となって考えながら進める部活動。

【すぐにできること】

- ・指導者の意識改革。中学校単位での大会出場。

【長期的に考えていくこと】

- ・何がウエルビーイングなのかを考えていく。
- ・中学生期のスポーツの在り方。学校と地域なのか。それとも地域なのか。

③ グループ3

【現状・課題】

- ・障がいのある方が身近なところで運動できる機会が少ない。スポーツ種目は、特に受け入れがでないところが多い。障がい者の方もこの協議に含まれるのか。
- ・指導者、送迎には、課題がある。地域に受け入れ可能なクラブはあるのか。

【具体的な目指す生徒の姿】

- ・いろいろな人と活動できる。心のバリアフリー、社会性。
- ・指導者がいなくても生徒たちでできる自主性。

【すぐにできること】

- ・今ある活動の連携。まずは知ること。知る機会をつくること。

【長期的に考えていくこと】

- ・連携していく、循環していく仕組みをつくり、継続性が大切。
- ・地域の中に入って多世代の交流を深められる場をどうつくるか。
- ・生徒が進んで活動でき、好きなことを見つめられる場づくり。

④ グループ④

【現状・課題】

- ・中体連やコンクールの在り方が課題。
- ・吹奏楽は、練習場所、指導者、費用等に大きな課題がある。受益者負担でいけるか。活動時間も問題がある。楽器の管理や鍵の保管をどうするか。
- ・送迎の問題。人格形成につながる指導者が必要。
- ・公民館、社会教育関係団体とどうつながるか。
- ・生徒の奪い合いになっている。引き抜きが行われる。

【具体的な目指す生徒の姿】

- ・人格形成。大人と中学生のつながり。相互の学び。

【すぐにできること】

- ・今後部活動別に協議を進めていくようにしたらどうか。

⑤ グループ5

【現状・課題】

- ・成果主義に走り出しやすい。指導者と保護者の過熱化が課題。ガンガンやりたい子ばかりではないという事実がある。コンクールに学校単位で出ていることが課題。一方でコンクールに出て力を試したいという生徒もいるのも事実。
- ・合唱は専門でない教員もいるので苦しい。
- ・2年後の中学校の部活がなくなる心配をしている保護者が多い。

- ・学術的なものを深めていく部活動が少ない。
- ・指導者に休んだ時に「なんで来ないんだ」と言われて悲しい思いをしている生徒がいる。
- ・人形劇に入る生徒が少ない。大きい学校と小さな学校の経験の差。

【具体的な目指す生徒の姿】

- ・異年齢との活動することのよさ。中学生は自分たちで動ける。考え、行動できる。

【すぐにできること】

- ・親と子に現状をしっかりと伝えていくこと。

【長期的に考えていくこと】

- ・公民館で教える人たちとの連携。保護者や地域の方との連携。

⑥ グループ6

【現状・課題】

- ・そもそも体力を高めるだけのことを考えているのなら、文化部はこの協議の場に参加する意味はない。常に文化部は、運動部の後追いで文化部に光が当たっていない。
- ・文化部の中にもやり過ぎの現状はある。指導者の意識改革が必要。特に小学校での改革は進んでいない。

【具体的な目指す生徒の姿】

- ・やりたいことを自由に選ぶことができ、個人のスキルと団体の力を高めることができる生徒。
- ・社会性を身に着ける。個人追究が窓口であっても社会性を身に着けていくことができる生徒。

【すぐにできること】

- ・美術をやっているひとには、個人だけではなく生徒と一緒にやりたいという方は潜在的にいる。共にできる場づくりはすぐにでもできるのではないかな。

【長期的に考えていくこと】

- ・予算の問題は考えていく必要がある。

8 アドバイザーから（稲垣先生）

「体験格差」の話題が出ていたが、どこまでを担保するのが難しい問題です。ボルダリングや英語教育を全ての子どもたちにやらせるか。スイミングスクールでは、小学校まではお金を払って通うが、中学生になると部活動で無料となるということを考えてみると、公的なものとしてどこまで担保していくかを今一度考える必要があると思います。全ての子どもに全ての体験を毎日提供することは不可能です。どこまでを市として、または地区として担保するのが考えていく必要があります。

個人的な意見となりますが、学校をハブとしたレクリエーション的な活動を週1回、2回の活動はすべての生徒に提供できる環境を地域みんなで作っていきましょう。というのが一つのゴールになるのではないかと考えております。距離の問題があるので、学校をハブとして、また近隣の学校を拠点として確保して専門の指導者にも限界があるので、保護者等の見守り・安全管理の中で子どもが楽しく活動できる場所、しかも中学生に限定せず小学生から大人までと一緒に楽しく活動できる、境界の無い生涯スポーツにつながる場所を作っていくことを目標としていくことも良いのではないかとことです。

一方、専門的な技能を高めたい生徒が専門的な指導を受けなければ、相応の対価を払って受けるし、指導者もより良いものを提供していく。そのためのターゲットを明確化していくことも必要です。

これからの時代は、一つのことを突き詰めることも大切ですが、今まで以上に、多様な体験を同時並行で行い、自分で時間の管理をして集中して取り組めるようになるというスキルがより一層求められてきます。その中で、一つの事だけでなくいろいろな経験ができる環境を用意していくことが教育の観点から重要であると言われております。

子ども側に視点を移してみると、これまで学校の授業が終われば部活動があって、ある意味、強制力が働く形で活動に参加している子どももいると思うが、これが完全に地域の活動になった時に、今まで

部活動で活動していた子どもたちが地域の活動に参加してくれるのが大きな課題になると思います。

飯田市では、全市型競技別スポーツスクールや文化活動等の地域での機会提供をされているが、すぐに多くの生徒が参加できるわけではないので、子どもたちが活動に参加したいと思うような活動や広報の仕方を一緒に考えていく必要がでてくると思います。その活動自体が、楽しくて熱中できるものを提供し、生徒が参加したくなるものを用意することが必要であると考えます。

最後、では何から始めたらいいいのかみたいなことをいろんな人から質問を受けたりしますが、やっぱり答えがあるわけではない。本当に一人一人といいますか、誰かがやってくれる、市がやってくれる、県がやってくれる、学校がやってくれるでは、なかなか動かない。本当にそれぞれの立場で、できることから本当にスタートしていくしかないのかなと思うのです。先ほど冒頭であげたような活動であれば、「私は見守りならできるよ」とか「この種目だったら週1回だったら、それも午前中だけだったら参加できるよ」という人がどんどん増えていかないと地域でこれを継続させていくことは難しい。主体的にどうやったらできるかをどんどん動き出していく必要があります。

その中で、やっぱりわかりやすいものとしては、1回休日にイベントをやってみるとか、それぞれの学校で、地域で。そういったものを本当に積みあげていながら、何回か何回もそれが当たり前の世界になっていく、そういったことも必要なんだろうなあいうふうに思っています。

飯田市さんの場合は、何年も前から部活動オフにしてとかジブンチャレンジ期間をやるとか、全市型等、本当に全国見ても先進的な新しいことにどんどんチャレンジしている地区になりますので、是非その歩みを止めずに、我々も飯田市さんの情報を全国に発信していけるようにしたいと思っておりますので、いろいろな事例をいただければなあと思っております。また、関係者の方から今年11月頃に、地域で生徒が主体になる試合を開催してみるという話を伺っております。本当に素晴らしい取組だと思っておりますので、そういったものを積み上げていければいいかなと思っております。

地域移行の話になると本当にハードルが非常に高いふうに設定しがちといいますか、これまで教育活動の一環としてやってきたことなので指導者の質とかちゃんとしてなきゃいけないとかそういったところが課題。もちろんそういった教育的側面は大事なんですけど、ハードルを高く上げすぎてなかなか動けない、本末転倒だと思うので、まずは、子どもたちでルールを決めて試合をやってみるとか、そういったスタートからやってみて、課題を見つけて、子どもたちに返してみる。一緒になってつくっていく。そういったスタンスでやっていく。みんなのために動いているんだよというところを見せながら、一緒になって臨んでくのもいいのかなあと思っております。是非情報をいただければと思います。

つくば市の方でコーディネーターをやっていて、行政の方と改革をすすめていくので情報共有等もさせていただければと思います。簡単ではありますが、まとめとさせていただきます。質問等も公開できる範囲でお答えしていきたいと思っております。

9 連絡

10 閉会（伊藤課長）